

「やくそく」をよんでみよう (あらすじとポイントをかいせつ)

やくそく あらすじ

ある おおきな 木に、さんびきの あおむしが いました。

あおむしたちは 木の はを たべて、ちょうに かわる ひを まってい
ました。

さんびきの あおむしは それぞれ、はっぱは じぶんのだから たべては
だめだと おおげんか。

そのようすを みていた おおきな 木は、あおむしたちに うえまで の
ぼって そとの せかいを みる ように いいました。

いちばん たかい えだに ついて、はじめて そらと うみを みた あ
おむしたちは めを まるくしました。

からだか ちょうに かわったら、みんなで うみまで とんで いこうと
やくそくを しました。

やくそく どうじょうじんぶつ

いっぴきめの あおむし・・まいにち 木の はを たべて、からだか ち
ように かわる ひを まっている。
じぶんの ことを「ぼく」と よぶよ。



にひきめの あおむし・・むしゃむしゃと はっぱを たべるよ。
じぶんの ことを「わたし」と よぶよ。

さんびきめの あおむし・・もりもり もりもりと はっぱを たべるよ。
じぶんの ことを「ぼく」と よぶよ。

おおきな 木・・はやしの なかの いっぱんの 木。あおむしたちの けんかを とめて そとの せかいを みるように いうよ。

やくそく おはなしのポイント

『やくそく』の おはなしでは、どんな とうじょうじんぶつが いて、
どんなことを いったのか、どんな ばめんが あったのか、そして それ
ぞれの ばめんが どんな じゅんばんで とうじょうしたか せいりする
ことが ポイントだよ。

「やくそく」とは

ところで、おはなしの だいめいに なっている 「やくそく」とは、
どういう いみかな？

「やくそく」とは、「なにかを する」とか、「なにかを しない」など
きめて、それを まもろうと することだよ。

「ゲームは しゅくだいを してから」と おかあさんと やくそくしたり、
「あした、こうえんで あそぼう」と おともだちと やくそくしたり
するよね。



「やくそく」の ひとつめの ばめん

ひとつめの ばめんでは、いっぴきめの あおむしが どうしようするね。

あおむしは、おとなに になると ちょうに かわるね。

いっぴきめの あおむしは、おとなに なって ちょうに かわる ために 木の はっぱを まいにち たべていたんだね。

「やくそく」の ふたつめの ばめん

ふたつめの ばめんでは、にひきめの あおむしが どうしようするよ。

にひきめの あおむしは、いっぴきめの あおむしと そっくりで、「むしゃむしゃ むしゃむしゃ」と はっぱを たべるね。

にひきめの あおむしが はっぱを たべているのを みて、いっぴきめの あおむしは「だめ だめ。この 木は、ぼくの 木。ぼくの はっぱ」と いったよ。

これは、いつも はっぱを たべて いたので、「この 木は ぼくの 木だ」と おもっていたからだね。

そして、ちょうに かわる ために たくさん はっぱを たべなくては いけないのに、にひきめの あおむしに はっぱを たべられて しまうと こまると おもったからだね。

でも、にひきめの あおむしも「この 木は、わたしの 木。だから、はっぱも、わたしの はっぱ。」と ゆずらないよ。



にひきめの あおむしも、いつも はっぱを たべて いたので、「この 木は わたしの 木」と おもっていたんだね。

「やくそく」の さんばんめの ばめん

いっぴきめの あおむしと にひきめの あおむしが いいあいを していると、こんどは「もりもり もりもり」と はっぱを たべる おとが したね。

これは、さんびきめの あおむしが はっぱを たべる おとだったね。

さんびきめの あおむしも、いつも はっぱを たべて いたので、いっぴきめの あおむしと にひきめの あおむしが「この 木は じぶんの 木だから、はっぱを たべないで」と いっても、「そんな こと する ものか。」と いって ゆずらなかったね。

これは、「この 木が いっぴきめの あおむしや にひきめの あおむしの ものだとは おもわないから、はっぱを たべることは やめない よ。」という いみだね。

こうして、さんびきの あおむしは はっぱを とりあって おおげんかを したんだね。

「やくそく」の よんばんめの ばめん

さんびきの あおむしが けんかを していると、「うるさいぞ」という こえが したね。

これは、さんびきの あおむしが いた 木の ことだよ。



木は、「みんな、もっと うえまで のぼって、そとの せかいを みて
ごらん。」と いったね。

これは、この 木の はっぱを とりあうことで おちゅうに なってし
まっている あおむしたちに、「そとの せかいは もっと ひろいよ」と
いう ことを つたえたいからだね。

「やくそく」の ごばんめの ばめん

いわれた とおりに うえまで のぼった あおむしたちは、めを まる
く したね。

「めを まるく する」という ことばは、「おどろく」という いみで
つかわれるよ。

さんびきの あおむしは、じぶんたちが いた おおきな 木は、じつは
はやしの なかの たった いっぽんの 木で、そとの せかいは もっと
ひろいということに きがついて おどろいたんだね。

「やくそく」の ろくばんめの ばめん

とおくには うみが あって、うみを みた あおむしたちは「あの ひ
かって いる ところは、なんだろう。」と 言って、えだに ならんで
せのびを したね。

あおむしたちは、まだ うみを みたことが なかったので、ひの ひか
りを はんしゃ して きらきら ひかっている うみを みて、おどろい
たんだね。



そして「ひかって いる ところ」に いってみたいと おもった あおむしたちは、「ちょうに かわったら ひかって いる ところまで とんでいく」という やくそくを したんだよ。

「やくそく」の ななばんめの ばめん

やくそくを した あおむしたちは、こんどは いっしょに 「くんねりくんねり」と えだを おりて いったね。

さっきまで はっぱを とりあって けんかを していた あおむしたちは、そとの せかいは ひろいことを しったり、ひかって いる ところへ いっしょに とんでいく やくそくを したりして、もう けんかを やめたんだね。

「やくそく」の はちばんめの ばめん

おはなしの さいごには、「木の はが、さらさら そよいで いま す。」と かかれているね。

さんびきの あおむしたちが けんかを やめて、おおきな 木は、あんしん したのかな。

「さらさら そよいで いる」という ことばから、木が、おだやかで やさしいきもちで あおむしたちを みまもっている ようすが つたわるね。



「やくそく」 まとめ

- ・だいまいの「やくそく」とは、なにかを まもろうと すること。
- ・さくしゃ（おはなしを つくったひと）は こかぜ さち さん。
- ・おはなしの じかんは「ある とき」
- ・おはなしの ばしょは「おおきな 木の うえ」
- ・ばめんの じゅんばんは
 - ①あおむしが はっぱを たべている
 - ②にひきめの あおむしと いいあいを する
 - ③さんびきめの あおむしも どうじょうして さんびきで おおげんか する
 - ④おおきな 木が「そとの せかい」を みるように いう
 - ⑤あおむしたちが うえまで のぼって ひろし せかいに おどろく
 - ⑥ちょうに なったら「ひかって いる ところ」まで とんでいく やくそくを する
 - ⑦さんびきが えだを いっしょに おりていく
 - ⑧木の はっぱが そよいでいる

